

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	株式会社 テレビ静岡
<p>意見項目</p> <p>(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望</p>	<p>意見内容</p> <p>○ブロードバンドモバイルの高度化</p> <p>放送事業者は電波政策(周波数割当計画)に沿って、3.4~3.6GHz帯の放送事業用固定局等を別のマイクロ波帯に移行させ、当該帯域の免許を返還する計画を進めており、ワイヤレスブロードバンドの高度化に協力しているものと考えます。</p> <p>○デジタル放送の高度化</p> <p>ブロードバンドモバイルの高度化への協力の一方、2011年7月24日の放送のアナログからデジタルへの完全移行により、VHF、UHF帯合わせて、130MHz幅の免許を返上したうえで、今後もデジタル放送において、今まで以上に良質かつインパクトのある番組、ワンソフトマルチユース化を考え、あらゆるジャンルにおいて、視聴者が、心から楽しんでいただける良質な番組並びに、情報を安定的に提供できるよう前進的に取り組んでおります。</p>
<p>(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題</p>	<p>○ブロードバンドモバイルを実現するための課題</p> <p>番組制作のために、放送局は様々な周波数を、その特性にあった使い方で使用しており、特に770MHz~806MHzは、FPUとして(以下800MHz帯FPU)、見通しのきかない場所での中継等で使用しています。</p> <p>ワイヤレスブロードバンドを実現するためには、隣接周波数帯にある各種無線システムとの共存条件などの技術検討が必要であり、特に、770MHz~806MHzの800MHz帯FPUと隣接する各種無線システムとの共存のための技術検討が課題と考えます。</p>
<p>(3) 関連する国内外の動向と課題</p>	<p>○移動中継等に関する国内外の動向</p> <p>800MHz帯FPUは、見通し外伝送が可能のため、市街地など遮蔽物が多い場所での伝送や移動中継等において威力を発揮しております。マイクロ波帯FPUやSNGによる伝送が困難な場合にも確実な伝送</p>

	<p>を行うことが可能なものであり、テレビ番組制作全般に幅広く利用されています。</p> <p>特に800M帯FPUは、マラソンなどのロードレース中継などの移動中継で使用しており、映像伝送には、ヘリコプターを介さなくとも行うことができ、天候等によりヘリがフライトできなくても映像伝送を行うことができます。</p> <p>又、ヘリの航空管制等によるフライト制限に影響する事なく番組放送を行うことができます。</p> <p>800MHz帯FPUは、今後とも放送事業者にとって必要不可欠な無線システムと考えます。</p> <p>又、災害報道中継には非常に効力を発揮できる無線設備であると考えており、社会的役割は決して小さいものではないと考えます。</p> <p>現在、800M帯FPUは、特定ラジオマイク／デジタル特定ラジオマイクと周波数を共用しており、運用調整により干渉妨害を未然に防ぐことで、周波数の有効利用を行っています。</p> <p>○ワイヤレスブロードバンドの高度化を図ることは重要であり、国民の利便性向上とともに、その経済効果にも期待するところでありますが、電波利用の目的や社会的意義はさまざまであり、放送業務など各種業務用無線システムのさらなる発展や高度化も、社会全体の利益に繋がるものであり大変重要であると考えます。</p>
<p>(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項</p>	